



止めろ! 特定整備路線 2018全都集会

まち壊し道路建設は中止を

日本共産党の吉良よし子参院議員、山添拓参院議員、そねはじめ都議が連帯のあいさつ



まち壊しの道路計画に反対する都内各地の住民らで組織する特定整備路線全都連絡会は7日、北とぴあで「止めろ! 特定整備路線2018全都集会」を開きました。会場は150人の参加で埋まり、活発な討議ののち、決議を採択しました。(のの山けん)

主催者による開会あいさつに続き、第1部は、「法廷でなにが争われ、なにが問われているのか」と題したパネルディスカッション。北区の補助86号線と73号線、品川の29号線、板橋の26号線などの住民裁判に携わる弁護士が、法廷において争点となっている問題について討論、数十年前の計画を無理やり引っ張り出し、住民の同意もないまま、まちや商店街を壊す道路計画の違法性が浮き彫りになりました。

第2部では、全都連絡会事務局の末延渥史氏が、事業化された都市計画道路



参院議員の吉良よし子氏と山添拓氏

特定整備路線の問題点をめぐり、国会でも

日本共産党からは、吉良よし子参院議員、山添拓参院議員が連帯のあいさつ。国会でも特定整備路線の問題点をめぐり、国会でも



弁護士によるパネルディスカッション



あいさつする、そねはじめ都議

を追求し、国に認可取り消しを求めていると報告しました。

そねはじめ都議は、道路事業をめぐる東京の動向について報告。小池都知事が特定整備路線の予算を削減したことについて「ワイズスペンディング」と述べていることを紹介し、「道路事業が不要不急であることの表明だ。これが『賢い支出』というなら、道路予算を福祉にまわすべき」と強調しました。

会場からの発言も相次ぎ、各地でのとりくみが交流されました。



# 死者と生者の会話を通して 大震災の真実に迫る

東京芸術座公演 「いぐねの庭」

東日本大震災から半年後の、ある被災家族の茶の間。遺体が見つからない子どもの死亡届けを出すのかどうかで言い争う夫婦の緊迫した会話から舞台は幕を開ける。区切りをつけて前へ進もうと説得する夫と、それを後押しする妻の両親と兄。しかし妻は、「まだ半年しか経っていないのに、あきらめろというの」と声を荒げる。震災から7年。過ぎゆく時の中で被災地の存在が忘れ去られていくことへの鋭い告発に、ドキッとさせられる。

「いぐね」とは仙台市近郊農家の特徴的な屋敷林のこと。緻密な取材で四世代にわたる大家族のひだに分け入り、いぐねの庭での死者と生者の会話を通して震災とは何だったのかを問う脚本は秀悦で、これに応える俳優陣の演技も見ごたえあり。進まぬ復興に襲いかかる生活苦。我慢に耐える人間への「泣いてもいいんだよ」の一言で、観ている側の涙腺もつい緩んでしまった。(のの山けん)

## 八重桜で お花見

8日、日本共産党志茂・赤羽後援会のお花見会。八重がきれいに。(のの山けん)



## のの山けん区議と語る集い Vol.2

### 北区新年度予算と 赤羽・志茂地域の 課題を考える

4/30<sup>振替休日</sup> 午後2時より

赤羽会館3階第2集会室

主催／日本共産党・のの山けん事務所



区議と語る集いの第2弾では、北区新年度予算と赤羽・志茂地域の課題について考えます。参加者からも質問・意見をいただき、双方向で進めていきます。ぜひご参加を。